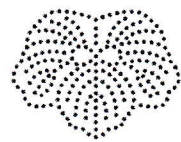


「リウマ伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



リウマ伝

54号
2024年5月26日
高野竜馬

「17年ぶりのゴルフ」

先日、17年ぶりにゴルフをした高野です。

我流で覚えたスキーはクセの矯正が大変だったので、ゴルフは最初からレッスンプロについて習い始めました。30年近く前のことですが。

ローン嫌いの私が、ローンを組んでオーダーメイドのゴルフクラブを手に入れました。それだけ「本気」のつもりでした。

ただ、その頃の私は人生で一番苦しい時期でした。親との確執、事業承継の放棄、無謀な金融業界進出等が原因で辞めてしまいました。

「ゴルフどころではない」と自覚しながらも、そのなりにお金と時間を投資していました。

まさにゴルフクラブは中途半端な私の人生そのものでした。

そこで6年ほど前、ある方にゴルフクラブの捨て方を指導してもらいます。すると「奥様は貴方がゴルフを辞める、とに何と言ってますか？」と。

「家内には何も言いません。彼女は僕のゴルフには一切関心がありませんから意見は聞かなくても大丈夫です。」

今考えれば痛い話で、当時の私はまるで奥さんの意見なんか聞くように思われていなかったのでしょう。話はゴルフクラブの処分法に終始します。ゴルフクラブとのお別れ式をや、売りに出すことに。

早速、納戸からゴルフクラブを引っ張り出して玄関に置いておきました。カバーをめくるとピカピカに磨かれたゴルフクラブは古さを感じさせませんでした。「俺も売るな」と言っているように聞こえました。

が、もう決めたことだからと割り切りました。ところが家内は「今捨てることはないでしょ。また使うかも知れないから今は捨てるな」と言っただけです。

驚きました。結婚以来、私のすることに一度も異を唱えなかった家内が反対したからです。しかも翌朝、起きるとゴルフクラブは元の場所に。

結局、お別れ式をすることは出来ませんでした。家内は私のゴルフにかけていた思いを知っていたのでしょう。か。

諦めるにはまだ早い。時間的にも経済的にも豊かになつて、またやりなさい」と励ましてくれているのではないかと感じました。改めて家内に感謝した出来事でした。

そんなクラブを17年ぶりに引っ張り出してのゴルフコンペ。「ほら、また使うことになったでしょ。」と妻。

伝説のアマ、中部銀次郎も通った唐津ゴルフ倶楽部入。自分史上最悪のスコア。孝句の果てには、クラブをゴルフ場に送られて、引き返すありさま(笑)。

確認すると、「お前、あの時俺を捨てようとしただろうし、そう言われた気がしました。」



たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

<https://www.takanozaikei.com> メール fp.takano@gmail.com